

(事例48) 42歳男性、事務、自律神経発作のため就業禁止

類型	症候	疾患
1、2、3、4	2. 自律神経発作（発汗、動悸、蒼白、振戦）	15. アルコール障害、パニック障害

きっかけ	<input type="checkbox"/> 健康診断の有所見	<input checked="" type="checkbox"/> その他の機会
<p>1. 対象者のプロフィール</p> <p>1) 年齢、既往歴 42歳、男性</p> <p>2) 業種、作業内容 事務作業</p>		
<p>2. 就業制限・配慮の対象となった疾病、健診値異常 例) 高血圧、HbA1c 高値、腰痛など 自律神経発作</p>		
<p>3. 就業制限・配慮の内容 例) 高所作業禁止、出張禁止、残業禁止、配置転換、治具導入など 就業禁止</p>		
<p>4. 事例の詳細（背景、経緯、特に考慮した事情など） アルコール依存が根底にある。職場に来ると顕著な自律神経発作を起こす（発汗、動悸、蒼白、振戦）。アルコールの離脱症状との鑑別が必要。</p>		
<p>5. 就業制限・配慮の主な目的（複数回答可）</p> <p>① 業務が当該労働者の健康、安全、疾病経過、予後に影響を与える可能性があったため</p> <p>② 企業リスクが予見されたため（交通事故、公衆災害の発生など）</p> <p>③ 健康管理を促進するため（受診、治療を強く進めるため）</p> <p>④ 職場や企業への注意を促すため（例：過重労働職場に対し、残業を一定時間以下に制限するなど）</p>		
<p>6. 就業制限を実施するにあたって注意した事、阻害要因、問題点などあれば教えて下さい</p>		